

令和6年度

## 病害虫発生予察特殊報(第2号)

令和6年9月25日  
神奈川県農業技術センター

病害虫名：トマトキバガ(学名：*Tuta absoluta* (Meyrick))  
作物名：－(農作物への被害は確認されていない)

### 1 発生経過

令和6年9月3日、農林水産省横浜植物防疫所が横浜市内に設置した侵入調査用フェロモントラップにおいて、トマトキバガの雄成虫2頭の誘殺が確認された(図1)。現在のところ、県内において本種による農作物被害は確認されていない。

### 2 形態および生態

成虫は、翅を閉じた静止時で体長5～7mm(前翅長約5mm、開張約10mm)で、前翅は灰褐色の地色に黒色鱗粉が散在し(図2)、後翅は一樣に淡黒褐色である。終齢幼虫は体長約8mm、体色は淡緑色～淡赤色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある(図3)。繁殖力が高く、地域によって差はあるが、年に10～12世代発生する地域もある。卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。

### 3 被害および分布と寄主植物

#### (1) 被害

トマトでは、幼虫が葉や茎の内部に潜り込んで食害し、孔道が形成される。食害部分は表皮のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる(図4)。幼虫が果実にせん孔・侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度のせん孔痕が生じるとともに食害部分が腐敗する(図5)。

バレイショでは地上部の加害のほか、まれに塊茎への加害が報告されている。

#### (2) 分布と寄主植物

本種は南米原産で、ヨーロッパ、アフリカ、中米、中東、アジアに分布を拡大している。国内では令和3年に熊本県で初確認されて以降、本県を含む43道府県で誘殺あるいは農作物への被害が確認されている。主な寄主植物はトマト、ナス、ピーマン等のナス科植物で、マメ科のインゲンマメへの寄生も報告されている。その他、イヌホオズキ等の野生寄主への寄生が報告されている。

### 4 防除対策

- ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。本種と疑われる害虫や食害を発見した場合は、速やかに農業技術センター病害虫防除部に連絡する。
- 被害葉や被害果等はほ場に放置せず、土中深くに埋めるか、ビニール袋等に入れて密封することで、寄生した成幼虫を死滅させたうえで、適切に処分する。
- 施設栽培では、出入口のほか、側窓や天窓等の開口部に防虫ネットを展張する。
- トマトまたはミニトマトでは、トマトキバガに登録のある防除薬剤を使用する。なお、農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守する。  
また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統(IRACコード)が異なる薬剤でローテーション散布を行う。



図1 フェロモントラップに誘殺された雄成虫



図2 成虫



図3 終齢幼虫



図4 トマト葉の食痕 (飼育個体)



図5 トマト果実の食痕 (飼育個体)

※図1～5：農林水産省植物防疫所原図

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部  
〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411  
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>